

## 中央アジア関連研究文献リスト 2005

本リストは、2005年に刊行された、原則としてイスラーム化以降の中国新疆及び旧ソ連邦のムスリム地域に関連する学術文献をリストアップしたものである（理科系のものを除く）。国内で刊行された、国内で活躍する研究者による著作に限定し、エッセイや事典項目等は除外した。なお、各文献の副題はコロンつなぎで統一した。

### 書籍

- 帯谷知可『中央アジア地域研究希少資料アーカイヴの構築とその学術的一般的有効利に関する研究』（平成15年度～平成16年度科学研究費補助金 基盤研究 (B)(2) 研究成果報告書）国立民族学博物館（非売品）
- 川本正知（校訂）『15世紀中央アジアの聖者伝：マカーマーテ・ホージャ・アフラル／マウラーナー・シャイフとして知られる弟子編著』東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所（非売品）
- 川本正知（訳注）『15世紀中央アジアの聖者伝：ホージャ・アフラルのマカーマート／マウラーナー・シャイフとして知られる弟子編著』東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所（非売品）
- 小松久男・梅村担・宇山智彦・帯谷知可・堀川徹編『中央ユーラシアを知る事典』平凡社（6,500円）
- 高橋巖根『ウズベキスタン：民族・国家・歴史』創土社（2,000円）
- Takamura Hiroki, *Change in the Natural Environment and Life in Oases of the Taklimakan Desert*, Bunkashobo-hakubunsha（3,990円）
- 西村めぐみ『民主化以降の南コーカサス：戦略的利益と民主主義理念の相克』多賀出版（3,000円）
- 西村可明・小宮裕恵『一橋大学経済研究所所蔵中央アジア・ザカフカス・ロシア極東経済統計資料総目次』一橋大学経済研究所（非売品）
- 廣瀬陽子『旧ソ連地域と紛争：石油・民族・テロをめぐる地政学』慶應義塾大学出版会（4,200円）

松原松毅・小長谷有紀・楊海英『ユーラシア草原からのメッセージ：遊牧研究の最前線』

平凡社 (2,800 円)

「天山山中に遊牧民をたずねて」(梅村坦)

「オアシスに生きた人々」(堀直)

「天山の岩と聖者の墓と」(濱田正美)

「オアシスを支配した人々：17世紀ヤルカンドの事例」(澤田稔)

水谷令子・清水陽子編著『女たちが究めたシルクロード：その国々の生活文化誌』東洋出

版 (2,000 円)

湊直信・林泰史・伊藤香純『援助協調事例研究：ウズベキスタン共和国カラカルパクスタ  
ン自治共和国の経験から』国際開発高等教育機構国際開発研究センター (非売品)

『国際シンポジウム「21世紀中央アジアにおける体制転換と法：法整備の現状と課題」報  
告集：The International Symposium on “Legal and Structural Transition in 21st Century  
Central Asia”』名古屋大学法政国際教育協力研究センター (CALE), 名古屋大学大学  
院法学研究科 (非売品)

「特集・ウイグル人の現在：中国と中央アジアの間で」『アジア研ワールド・トレンド』112号

「ウイグル社会への『漢流』」(梅村坦)

「ウイグル人の歴史と現在」(新免康)

「ウイグルの古都ヤルカンド」(堀直)

「翻弄された文字文化：現代ウイグル語の黄昏」(菅原純)

「新疆におけるウイグル人の民族学校」(リズワン・アブリミティ)

「儀礼的世界のウイグル女性」(藤山正二郎)

「カザフスタンのウイグル人」(岡奈津子)

「ウイグル人と大日本帝国」(菅原純)

## 論文

石田紀郎「中央アジアの水問題：消えるアラル海から」『アジア遊学』75「黄河は流れ  
ず：アジアの水問題」所収，勉誠出版 (1,890 円)，120-130 頁

岩下明裕「現地報告：中国と中央アジア：接触地域の現場検証」『ユーラシア国境政治：  
ロシア・中国・中央アジア』(21世紀COEプログラム「スラブ・ユーラシア学の構  
築」研究報告集No.8)，北海道大学スラブ研究センター，39-72 頁

植田樹「プーチン大統領のチェチェン政策」『自由』47(3)，24-40 頁

- 宇山智彦「旧ソ連ムスリム地域における『民族史』の創造：その特殊性・近代性・普遍性」酒井啓子・臼杵陽編『イスラーム地域の国家とナショナリズム』所収，東京大学出版会（4,800円），55-78頁
- 宇山智彦「第二ラウンドを迎えた CIS 諸国の政治変動：『革命』の誘因と阻害要因」『国際問題』（日本国際問題研究所）544，42-46頁
- 遠藤義雄「キルギスタンのチューリップ革命」『海外事情』（拓殖大学海外事情研究所）53(5)，17-26頁
- 王建新・新免康「中国ムスリムの女性教育：1990年代以降の状況を中心に」加藤博編『イスラームの性と文化』所収，東京大学出版会（4,800円），127-151頁
- 岡崎邦彦「中国の中央アジア政策：上海協力機構（SCO）設立にみる中国の中央アジア政策」『東洋研究』（大東文化大学東洋研究所）154，1-31頁
- 岡奈津子「カザフスタンにおける地方政治エリート（1992～2001年）」青山弘之・酒井啓子編『中東・中央アジア諸国における権力構造：したたかな国家・翻弄される社会』所収，岩波書店（4,400円），111-142頁
- 岡奈津子・半谷史郎「旧ソ連朝鮮人研究の現状：李愛俐娥著『中央アジア少数民族社会の変貌：カザフスタンの朝鮮人を中心に』を読んで」『アジア経済』46(10)，66-79頁
- 小沼孝博「イリ駐防八旗の設置について：清朝の新疆支配体制の構築に関する一考察」『東方学』110，108-121頁
- 帯谷知可「英雄の復活：現代ウズベキスタン・ナショナリズムの中のティムール」酒井啓子・臼杵陽編『イスラーム地域の国家とナショナリズム』所収，東京大学出版会，185-212頁
- 帯谷知可「中央アジア地域研究希少資料デジタル化の試み」『地域研究』（国立民族学博物館）7(1)，185-195頁
- 帯谷知可「オストロウモフの見たロシア領トルキスタン」『ロシア史研究』76，15-27頁
- 帯谷知可「旧ソ連中央アジアの国境：20世紀の歴史と現在」（北海道大学スラブ研究センター公開講座(2) ユーラシアの国境問題を考える)『しゃりばり』No. 284，54-58頁
- 片山博文「アラル海をめぐる国際協力：『地域共有資源』の構築へ向けて」『桜美林エコノミックス』（桜美林大学経済学部）52，39-55頁
- 河原弥生「コーカンド・ハーン国におけるマルギランのトラたち：ナクシュバンディー教団系の聖者一族に関する一考察」『日本中東学会年報』20(2)，269-294頁
- 菊田悠「変化の中の『伝統』解釈と実践：ポスト・ソヴィエト期ウズベキスタンの陶工の事例より」『アジア経済』（アジア経済研究所）46(9)，42-61頁

- 菊田悠「ソ連期ウズベキスタンにおける陶業の変遷と近代化の点描」『国立民族学博物館研究報告』30(2), 231-278 頁
- 木村汎「CISの終焉か：『オレンジ革命』の衝撃と限界」『海外事情』（拓殖大学海外事情研究所）53(5), 2-16 頁
- 黒岩高「『学』と『教』：回民蜂起に見る清代ムスリム社会の地域相」『東洋学報』（東洋文庫）86(3), 99-133 頁
- 玄承洙「北カフカースにおける『ワッハーブ主義』の形成と展開」『イスラム世界』64, 91-99 頁
- 斎藤元秀「旧ソ連地域と大国の関係：利害の錯綜と新たな現実」『国際問題』（日本国際問題研究所）544, 13-25 頁
- 坂井弘紀「語り継がれる『記憶』」林佳世子・榎谷友子編『記憶と表象：資料が語るイスラム世界』所収、東京大学出版会（4,800円）、33-54 頁
- 真田安「歴史概念としてのシルクロード批判：『世界史』にとって「シルクロード」は歴史用語としてどこまで有効か」『社会科研究集録』（埼玉県高等学校社会科教育研究会）41, 34-36 頁
- 清水学「石油・天然ガスと旧ソ連圏をめぐる国際関係」『国際問題』（日本国際問題研究所）544, 26-41 頁
- 新免康「ウイグル：トゥルファンのイスラーム聖廟の歴史と現在」末成道男・曾士才編『〈講座・世界の先住民民族：ファースト・ピープルズの現在〉01 東アジア』、明石書店（4,800円）、211-226 頁
- 菅原睦「ウイグル文字本『聖者伝』の研究：ペルシア語原本との比較」『語学研究所論集』10, 1-14 頁
- 立花優「革命なき世代交代：アゼルバイジャンの政局と与党」『国際問題』（日本国際問題研究所）544, 63-69 頁
- 田中福一郎「中央アジア・シルクロード地域経済圏の市場経済移行プロセスの特色と課題：移行経済支援に関する一つの視点として」『開発金融研究所報』（国際協力銀行）23, 105-117 頁
- 地田徹朗「ソ連邦構成共和国共産党エリートの『移動』と『巡礼』：カザフスタン（1955-1991）」『スラヴ文化研究』（東京外国語大学ロシア東欧課程ロシア語研究室）4, 65-80 頁
- 中島隆晴「トルクメニスタンで変革は起こりうるか」『海外事情』（拓殖大学海外事情研究所）53(5), 63-73 頁
- 中島隆晴「ニヤゾフとカリモフの対立・急接近」『海外事情』（拓殖大学海外事情研究所）53(2), 121-130 頁

- 西村可明・杉浦史和「旧ソ連におけるザカフカス諸国の経済発展」『経済研究』56(1),  
53-68頁
- 野坂潤子「帝政ロシア統治政策におけるカフカースのムスリム法（シャリーアと慣習法）  
（ロシア帝国におけるイスラーム地域統合政策の諸相：教育および司法を中心に）」『ロ  
シア史研究』76, 28-37頁
- 野田仁「露清の狭間のカザフ・ハーン国：スルタンと清朝の関係を中心に」『東洋学報』  
87(2), 29-59頁
- 袴田茂樹「政変ドミノ後のCIS諸国の動向」『国際問題』（日本国際問題研究所）544, 2-12頁
- 濱本真実「テュルク系エリートのロシア化とロシア人エリート社会：17世紀末のナルベコ  
フ家系譜を中心に」『内陸アジア史研究』20, 45-65頁
- 濱本真実「17世紀ロシアにおける非ロシア正教徒エリート政策」『スラブ研究』52, 63-98頁
- 廣瀬陽子「アゼルバイジャンの世襲政治」『海外事情』（拓殖大学海外事情研究所）53(5),  
51-62頁
- 樋渡雅人「ウズベキスタンのプライベート・トランスファー（私的資源移転）：社会保障  
機能の分析」『アジア経済』（アジア経済研究所）46(4), 21-46頁
- 藤本透子「あるインテリ女性の子育て：ソ連時代からカザフスタン独立後の変動のなか  
で」『沙漠研究』14(4), 231-246頁
- 星野昌裕「少数民族の在外運動組織」佐々木智弘（編）『現代中国の政治変容：構造的変  
化とアクターの多様化』所収，アジア経済研究所（3,000円），第4章131-155頁
- 堀川徹「タリーカ研究の現状と展望：道、流派、教団」赤堀雅幸・東長靖・堀川徹（編）  
『イスラームの神秘主義と聖者信仰』東京大学出版会，161-185頁
- 間野英二「15・16世紀、中央アジアにおける君臣儀礼：その一 会見の儀礼」『東方学』  
109, 1-23頁
- 由川稔「中央アジア諸国の対外政策と開発戦略（下）」『東洋研究』（大東文化大学東洋研  
究所）156, 21-55頁